

## (2) 今後の活動計画

### ▲中・長期計画～この地域の5年後のカタチ～

平成28年度に「広域観光周遊ルート」に認定されたことを当ルート、当地域にとってのビックチャンスとして捉え、この5年間を目標に、海外からの観光客を意識した受入れ環境の整備、特に言語対応、案内や情報発信の充実などを積極的に行い、ルート内の環境を整えていきます。また、隣接するルートとの連携を図り、ガイドの育成、統一感のある案内や共通した情報発信などを広域的な視点を持ちながら、「きた北海道」全体が魅力あるエリアとなるようルート一体となって進めていきます。

さらには、日本人観光客を対象としたきめ細やかなサービスの提供を目指し、ルート活動団体と観光・集客施設等との情報共有を徹底し、現状の把握とともに課題・問題点の共有などを行い、再び訪れたいと思えるようなルート（エリア）作りを目指します。

5年後に、現在の二次交通の脆弱さを埋められるだけの別の交通機関が存在するとは考えられず、人力による移動を含め、地域をゆっくり時間をかけて堪能いただくため、この「不便さ」を「良さ・魅力」として捉えられるような、個性・独自性のあるルートとして定着できることを目指します。

### 平成34年度（5年後）にならなりたいルートのカタチ

<p>★<b>景観</b>／ おすすめ広域観光周遊ルート 周辺の魅力ある景観形成</p> <p>★<b>地域</b>／ 地域住民と来訪者の交流に よる賑わいあるエリア</p> <p>★<b>観光</b>／ 地域産業と特性を活かした 独自性ある観光空間</p>	<p>そのために5年間で実施・形作っていくもの</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●地域住民等と連携したコース周辺の清掃活動、除草活動の継続的な実施</li><li>●おもてなしの道づくり～花植活動～の継続的な実施</li><li>●次世代を担う若い人達との交流によるボランティア活動</li><li>●歴史文化施設、廃線跡などを活用したイベント等の実施～地域住民の地域（資源）への愛着の醸成</li></ul>
---	---

▲短期・中長期計画 ～平成29年度(詳細)／平成30年～33年度まで～

景観	地域	観光空間	活動内容	具体的な活動(目標)	(活動内容詳細)	平成29年度												平成30年度				平成31～33年度			
						4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
景観	地域	観光空間	広域的で良好な周遊観光ルートの形成	▲メインコースの設定(自転車/カヌー/フットバス)	天塩川SBWのメインコース(自転車での周遊オスモルト)の設定	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲メインコースの環境整備	天塩川SBWのメインコース上でのサイクルラックの設置、サイクルオアシス等の検討	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲メインコース周辺の景観整備	天塩川SBWのメインコース周辺の良好な景観形成(清掃活動、花植え活動、景観チェック)	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲メインコースのモニターツアーの実施	ツアーの実施(+アンケート調査等の実施)	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲ルートの景観診断	ルート内の現地確認(視察)(地域資源やビューポイント等の確認(発掘)、広域的な連携企画など)	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				△ビューポイント箇所の整備	ビューポイント箇所への看板等の設置、広報PR(ビューポイントパーキングへの登録)	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲花植え活動、除草	実施:コスモロード、ひまわりロード、そばの花ビューポイント沿道の除草 他 (各地域)	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
△清掃活動	実施:天塩川クリーンアップ大作戦 他 (各地域)	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月							
景観	地域	観光空間	きた北海道エコ・モビリティ事業の推進	▲きた北海道エコ・モビリティマップの作成	マップ使用素材収集、作成(※宗谷SBWとの連携)	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲きた北海道エコ・モビリティに関する情報発信①	PRビデオの作成、公開(youtube)(※宗谷SBWとの連携)	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲きた北海道エコ・モビリティに関する情報発信②	SNS(またはHP)の開設(※宗谷SBWとの連携)	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲きた北海道エコ・モビリティに関する勉強会の開催	勉強会の準備、開催(内容:専門家による講演、活動実施報告等)(※宗谷SBWとの連携)	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲きた北海道エコ・モビリティのモニターツアーの実施	ツアーの実施、アンケート調査の実施	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲先遣地視察	先遣地への現地視察(視察国:スイス、台湾)	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				△サイクルイベントの実施	実施:剣淵町、中川町等(共催:天塩川SBW)	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
△カヌーイベントの実施	実施:ダウン・ザ・テッシューベツ実行委員会	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月							
景観	地域	観光空間	ルート内連携による情報発信	▲ルートオリジナルロゴの作成	ロゴマークの作成 ※ロゴの活用は名称確定後(指定ルート確定後)	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲連携ポスター等の情報発信	ルート内の地域イベント・資源等の連携ポスター(またはパンフレット等)の作成	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲情報発信点の設置	ルートの情報発信箇所(パンフレット等の配布、周遊観光案内等)	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲各地イベントでのルートPR	各地イベントでの天塩川SBWのPR活動(ブース設置、パネル展示・パンフレット等の配布など)	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲森林資源の活用	クラフト体験(奥深・恩根内、音威子府)、音威子府高校との連携	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲地元木材を活用したスタンドの制作	サイクルラックのキッドの検討、作成	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲林業体験イベントの実施	※「きこり祭り」「森ジャム・チェーンソーアート」等への天塩川SBWの共催など	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
景観	地域	観光空間	歴史・文化と森林文化の活用	▲フォトコンテストの開催	募集要項の作成、応募、審査会の開催、展示	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲地域ガイドの発掘	カヌーガイド/サイクルガイド/フットバスコースガイドの発掘、人物ブックの作成	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲地域ガイドの育成	小中学生を対象としたガイド育成授業の実施、ガイドブックの作成 ※地域おこし協力隊ならぬ「地域魅力つたえ隊」とか、協力隊の準子的な。	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				△「森林」と「水」の教育	子供向け企画の検討、実施	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲「松浦武四郎」にまつわる地域の文化継承	企画検討、実施(※萌える天北オロロンルートとの連携 ほか)	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲御当地グルメの開発	各地の御当地食材のリスト作成、食の開発(企画、制作)、販売(観光バス・観光)との連携	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲道の駅との連携	サイクルラックの設置への協力、モビリティ等の情報発信 等	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
景観	地域	観光空間	ルート運営等	▲ルート運営代表者会議(全体会議)	総会年1回+臨時会議	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲エリア会議	3エリア(北組、中組、南組)で調整し開催	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲担当者会議	年5回程度、活動内容の検討・実施、活動計画書等の作成 等	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			
				▲シーニック勉強会等の開催	指定ルート申請に向けたシーニックに関する勉強会 ※指定ルートの方や推進協議会の方をお招きしてアドバイスを受けるなど。	4月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	7月	10月	12月			

◆シーニックバイウェイ候補ルート登録時における審査員意見への対応表（案）

<付帯意見：1 / 5>

候補ルート登録時における付帯意見 (対候補ルート全体)	付帯意見に対する対応（案）
<p>ルート活動に参加するあらゆる団体・個人が、<u>シーニックバイウェイについての理解を深め、ルートとしての理念・目標・活動指針の明確化とその共有化</u>に向け、引き続き取り組むこと。</p>	<p>○シーニックバイウェイについての理解を深める ○ルートとしての理念・目標・活動指針の明確化とその共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年の候補ルート申請以降、シーニックバイウェイについての理解を深め、メンバー間での共通認識を図るため、5回/年のペースで担当者会議を実施してきました。会議では、シーニックバイウェイの活動団体として自分達にできること、地域資源を有効的に活用しながら広く活動を周知していく方法などについて検討を進めてきました。</li> <li>・会議を重ねることにより、メンバー間での信頼関係も構築され、シーニックバイウェイの活動に参画している意識も高まり、シーニックバイウェイとしての連携した活動も増え始めています。</li> <li>・また、平成27年に4回、平成28年に1回、ワークショップを開催し、地域資源の再確認とルート活動の方向性について話し合いました。地域特性を考慮したルートのイメージを「遊べる大河」「手軽な本格」「魅力的な不便」と設定し、これを軸に意識して活動を進め、充実させていくことを共有しました。その結果、現在はルート全体にまとまりが生まれ、活動内容も判りやすくなり、道北全体の地域活性化・観光振興として効果的な手法であったと確信しています。</li> <li>・その他、シーニックバイウェイを立ち上げた経緯やこれまでの10年の動き、他ルートの先進的な活動事例の紹介、自分達の地域を客観的な立場からアドバイス等を戴くため、シーニックバイウェイの審査委員である石田先生等をお招きした勉強会を開催しました。</li> <li>・改めて自分達の地域の良さを違う角度から気づくとともに、ここにしかない地域特性の良さを活かした活動への期待をいただき、現在はより具体的な活動として取り組みを始めています。</li> </ul>

候補ルート登録時における付帯意見 (対候補ルート全体)	付帯意見に対する対応 (案)
<p>あわせて、<u>運営体制の強化</u>、<u>人材発掘・育成</u>、<u>地域資源の発掘・活用</u>などの方策、ルート活動団体を中心としながら地域住民、各種団体、行政、地域産業なども含めた<u>連携・協働のあり方の検討</u>、<u>それらを活用した取り組みを推進</u>していくことが重要である。</p>	<p>○<u>運営体制の強化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局が中心となって、25ある活動団体を取りまとめ、全体の連絡・調整・取りまとめ、情報発信などを行っています。</li> <li>・また、活動内容によっては、ルート事務局以外の活動団体はその活動の事務局として中心となって進めるなど、運営体制を工夫しています。エコ・モビリティの取り組みがその一つの例であり、中川町観光協会が事務局となってルート全体を取りまとめ、活動の企画・調整等を行っています。</li> <li>・活動内容等にあわせて事務局機能を分けることで、活動自体もスムーズにやりやすく、事務局負担も軽減され、結果として、活動団体自身の活動への参画意識も高まるため、運営強化に繋がっていると感じているところです。</li> <li>・上各会議にて話し合われた結果は、事務局を通じて、全活動団体にて情報共有を行い、ルート内での温度差が生まれないように努めるとともに、情報共有のため、メーリングリストを活用し、会議開催の案内を行っています。</li> <li>・また、会議に参加できなかったメンバーには、終了後に事務局からメールや電話にて会議結果等を報告し、次回の参加に繋がり、メンバー間での温度差がでないような工夫を行っています。結果として、年々確実に会議への参加率が増しています。</li> </ul> <p>○<u>人材発掘・育成</u></p> <p>○<u>地域資源の発掘・活用</u>などの方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他ルートとの連携した取り組みや先進事例の視察などを行う中で、人材育成の重要性や、より効果的な地域資源の活用方法などについて検討するきっかけが得られました。</li> <li>・平成27年度には、道北地域全体のイメージを共有し、新たな地域資源の発掘、具体的な取り組みへ発展することを目的に全4回のワークショップを開催し、3つのイメージとテーマを設定し、共有しました。</li> </ul>

候補ルート登録時における付帯意見 (対候補ルート全体)	付帯意見に対する対応(案)
<p>あわせて、<u>運営体制の強化、人材発掘・育成、地域資源の発掘・活用</u>などの方策、<u>ルート活動団体を中心としながら地域住民、各種団体、行政、地域産業なども含めた連携・協働のあり方の検討、それらを活用した取り組みを推進</u>していくことが重要である。</p>	<p>これらの内容について、ルート運営活動計画書へ反映しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度には、昨年度の結果を元に、3つのイメージを活かし、景観・観光資源、歴史文化、食などの資源を繋ぐ、広域的な周遊観光メインルートについて検討しました。</li> <li>・検討結果として、具体的には、「エコ・モビリティ」の取り組みにおいて、地域資源の紹介や体験メニューのガイドなどができる地域ボランティアなる人材を発掘し、活動への参画へと繋がることを目的にした研修会等の企画を進めています。(2017年7月実施予定)</li> <li>・また、地域資源の魅力発信と観光周遊コース、シーニックバイウェイの紹介を取り入れたパンフレットを作成しました。インバウンド対応としても利用できるように英語版で作成しており、今後は配布方法にも力をいれ、地域全体のプロモーションを行っていきたいと思っています。(2017年4月発行予定)</li> </ul>

候補ルート登録時における付帯意見 (対候補ルート全体)	付帯意見に対する対応 (案)
<p>あわせて、<u>運営体制の強化、人材発掘・育成、地域資源の発掘・活用などの方策</u>、ルート活動団体を中心としながら地域住民、各種団体、行政、地域産業なども含めた<u>連携・協働のあり方の検討</u>、<u>それらを活用した取り組みを推進</u>していくことが重要である。</p>	<p>○<u>連携・協働のあり方の検討</u>            ○<u>それらを活用した取り組みを推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当地域においては長年、「行政」「観光協会」「商工会」等が会員となって組織した『道北観光連盟』があり、上川北部地域全域での広域的な連携による観光振興を目指した取り組みを継続的に行っています。</li> <li>・この組織の持つ繋がりを活かし、さらに NPO や地域団体など地域活動を自ら積極的に行っている人、小学・中学・高校生などの若い世代に、少しずつでもシーニック活動への参画に繋がるような工夫をし、交流時間を増やす場づくりを目指していきます。</li> <li>・地域住民や団体・行政の連携については、各地域で行われている取り組みに参加しあい、一体感を持てるように活動を続けています。</li> <li>・参加することで各立場のできることを、やれることを感じてもらい、自分達の地域に持ち帰ってできることを考えるきっかけにもなり、年々、取り組みへの参加や参加できる取り組み自体も増えていることから、結果として連携の強化に繋がっていると手ごたえを感じています。</li> </ul> <p>(例) 名寄市から下川町にかけての名寄川の堤防強化にあわせた天端舗装の事業化</p> <p>事業実施に向けて、自治体と調整して地元から国土交通省へ申請を行い、認定された。行政担当者が地域活動に参加したからこそ、地域との調整ができ、エコ・モビリティにおける環境整備にも繋がったといえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・また、平成 30 年には北海道命名 150 年、名づけ親・松浦武四郎が生誕 200 年を迎えるため、ルート含めた地域一体となった取り組みを行います。これを機会に、地域団体・企業・行政での繋がりがより一層深まることに期待ができ、今後の様々な取り組みにおける迅速な連絡体制の構築や情報発信の強化に繋がると思われます。(2017 年 3 月現在：具体的な内容については企画検討中)</li> </ul>

候補ルート登録時における付帯意見 (対-天塩川流域ミュージアムパークウェイ)	付帯意見に対する対応 (案)
<p>天塩川を中心とした手つかずの原生自然、エコロジカルな景観、極寒地の雪国景観は、国内でも他に見られない地域資源である。但し、点在する地域資源の差別化を図りながら、<u>ルート全体をミュージアム化するという具体的な方向性や活動目標・計画</u>を策定することや、活動の相乗効果を生み出すため、<u>既存ルートとの連携</u>を図ることが重要である。</p>	<p>○<u>ルート全体をミュージアム化するという具体的な方向性や活動目標・計画</u></p> <p>○<u>既存ルートとの連携</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルート名は「天塩川シーニックバイウェイ」として改名（※詳細は「付帯意見：5 / 5」を参照）し、具体的な取り組みの方向性や活動目標もそれに伴い変更しましたが、“「見て・触れて・知って・伝える」場として体験できる空間づくり”の天塩川流域ミュージアムパークウェイ時の考え方はそのままに、ルートストーリー、活動方針・内容を新たに見直し・改善し、更なる活動の充実を図っているところです。</li> <li>・平成28年度（春）に、「日本のでっぺん。きた北海道ルート」として、当ルートを含む道北エリア全域で「広域観光周遊ルート」に認定されました。この動きも視野にいれ、平成27年度より「きた北海道エコ・モビリティ」事業で連携している宗谷シーニックバイウェイと、より一層の連携強化を図っています。</li> <li>・厳しい自然をイメージする宗谷シーニックバイウェイとは違い、当ルートは穏やかでゆったりしたイメージが魅力に繋がるような発信をし、差別化を図りつつも一体感を持ち、インバウンド観光を意識した先進事例となるような観光周遊ルートの確立を目指します。 (例) 既存ルートとの連携した取り組み『きた北海道エコ・モビリティ』 宗谷シーニックバイウェイと連携し、それぞれが持つ魅力的な資源を効果的且つ有効的に活用しながら、様々なアクティビティによる「人力移動」と「公共交通」を組合せた『きた北海道エコ・モビリティ』事業を推進。この取り組みには、一地域や単一ルートだけではなく、点から線、面へと広がり、広域的に周遊し、地域を知ってもらえるメリットがある。厳しい冬（雪）と日本最北の地である特性を活かし、道内外の観光客及びインバウンドも視野にいたした冬期の観光振興に繋げる「冬のモビリティ」についても連携しながら検討を進めている。</li> </ul>

候補ルート登録時における付帯意見 (対-天塩川流域ミュージアムパークウェイ)	付帯意見に対する対応 (案)
<p>また、天塩川流域の連携強化のための「<u>天塩町</u>」の参入、<u>地域の活動団体や森林組合等の参加促進</u>、計画推進に向けた分科会等の活用など、<u>組織体制の強化・見直し</u>が必要である。</p>	<p>○天塩町の参入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・萌える天北オロロンルートとののルート間連携に力を入れることで、天塩町を含めた近隣市町村等と繋がりながら、より広域的な視点を持ちながら、活動の充実を図っています。</li> <li>・また、萌える天北オロロンルートの天塩町とは、平成30年に記念を迎える「北海道命名」と、天塩川と松浦武四郎に絡めた企画を連携ができないか検討しているところです。(平成29年3月現)</li> <li>・既にルート間連携としては、道北エリアのシーニックルートでの連携会議を年数回実施しており、広域観光周遊ルートにも認定されたことで、今後具体化していく必要はあり、シーニックルート以外の地域団体も含めて、連携強化を図っていきます。</li> </ul> <p>○地域の活動団体や森林組合等の参加促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当ルートの柱でもある「きた北海道エコ・モビリティ」事業の推進とともに、主にサイクリング観光の受け入れ環境を整えるために、地元木材を活用したサイクルラックを開発し、“サイクルラック・キッド”として商品化を目指します。</li> </ul> <p>○組織体制の強化・見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者会議や部会以外にも、期間限定的なものやエリアを越えた取り組みの活動を充実させるため、具体的な活動内容にあわせたプロジェクトチームを構成し、より効率的な活動となるような組織づくりの見直しを行い、活動の充実を図っています。</li> <li>・これらの各プロジェクトで実施した内容については、ルート代表者会議及び各エリア部会、担当者会議等へ、適宜報告し、情報共有を行っています。</li> </ul>



候補ルート登録時における付帯意見 (対-天塩川流域ミュージアムパークウェイ)	付帯意見に対する対応 (案)
<p>併せて、「博物館」「美術館」との誤解される可能性があるため、<u>ルート名の「ミュージアム」について変更の検討が必要である。</u></p>	<p>○ルート名の「ミュージアム」について変更</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルート代表者会議でも議論を重ね、ルートのメインリバーである「天塩川」をそのままに、シーニックバイウェイの取り組みであることを知ってもらうために、「天塩川シーニックバイウェイ」として指定ルートの申請を行いたいと思います。</li> <li>・また、当ルートをより一層身近に感じ、親しんでもらうため、「天塩川」のアイヌ語である「テッシ・オ・ペツ」を、ニックネームとして掲げることとしました。 * 「テッシ」は梁、「オ」は多い、「ペツ」は川を意味する。</li> </ul>

中産産 第71号  
平成29年7月11日

天塩川流域ミュージアムパークウェイ  
ルート運営代表者会議  
会長 吉田 肇 様

中川町長 川口 精雄



シーニックバイウェイ北海道  
天塩川流域ミュージアムパークウェイ  
ルート運営活動計画に対する意見照会について (回答)

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃より、天塩川流域を基軸にした きた北海道地域の広範囲にわたる地域振興  
にご尽力されていることに心より敬意を表します。

さて、当町においては、貴ルートの活動に対する取り組みを きた北海道の広域  
的な連携による地域発展に寄与する取り組みとして期待していることから、今後も  
積極的な協力を続けていきたいと考え、その旨をご回答といたします。

敬具

担 当： 中川町産業振興課産業振興室  
TEL： 01656-7-2816  
FAX： 01656-7-3511

音経産第131号  
平成29年 7月19日

天塩川流域ミュージアムパークウェイ  
ルート運営代表者会議  
会長 吉田 肇 様

音威子府村長 佐 近



シーニックバイウェイ北海道天塩川流域ミュージアムパークウェイ  
ルート運営活動計画に対する意見照会について（回答）

謹啓 時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。

貴ルートの活動に対する取り組みについては、当村および道北地域全体の発展・地域振興に大きく寄与する取り組みとして期待されることから、今後も積極的な協力を続けていきたいと考えております。

敬具

北海道中川郡音威子府村字音威子府444番地1  
音威子府村役場 経済課  
産業振興室 商工労働観光係長 長野 稔 弘  
toshihiro\_nagano@vill.otoineppu.hokkaido.jp  
Tel 01656-5-3313(36) Fax 01656-5-3837

美総企第331号  
平成29年7月20日

天塩川流域ミュージアムパークウェイ  
ルート運営代表者会議  
会長 吉田 肇 様

美深町長 山口 信 夫



シーニックバイウェイ北海道天塩川流域ミュージアムパークウェイ  
ルート運営活動計画に対する意見照会について（回答）

貴ルートの活動に対する取り組みについては、当町及び道北地域全体の発展・地域振興に大きく寄与する取り組みとして期待されることから、今後も積極的な協力を続けていきたいと考えます。

（総務課企画グループ）

名 営 第 231号

平成29年7月24日

天塩川流域ミュージアムパークウェイ  
ルート運営代表者会議  
会長 吉田 肇 様

名 寄 市 長 加 藤 剛 士 印



シーニックバイウェイ北海道  
天塩川流域ミュージアムパークウェイ  
ルート運営活動計画に対する意見照会について（回答）

謹啓 時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。

貴ルートの活動に対する取り組みについては、当市および道北地域全体の発展・地域振興に大きく寄与する取り組みとして期待されることから、今後も積極的な協力を続けていきたいと考えます。

敬具

担 当：名寄市経済部営業戦略室営業戦略課

TEL：01654-3-2111

FAX：01654-2-4614

士別市指令第 954 号  
平成 29 年 7 月 21 日

天塩川流域ミュージアムパークウェイ  
ルート運営代表者会議  
会長 吉田 肇 様

士別市長 牧 野 勇 司



シーニックバイウェイ北海道  
天塩川流域ミュージアムパークウェイ  
ルート運営活動計画に対する意見照会について（回答）

謹啓 時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。

貴ルートの活動に対する取り組みについては、当市及び道北地域全体の発展・地域振興に大きく寄与する取り組みとして期待されることから、今後とも積極的な協力を続けていきたいと考えます。

敬具

18

担当：士別市経済部商工労働観光課  
主事 佐々木 大輔  
T E L:0165-23-3121(内線 2385)  
F A X:0165-22-2478

下環環 第198号  
平成29年7月24日

天塩川流域ミュージアムパークウェイ  
ルート運営代表者会議  
会長 吉田 肇 様

下川町長 谷 一 之 ㊟



シーニックバイウェイ北海道  
天塩川流域ミュージアムパークウェイ  
ルート運営活動計画に対する意見照会について（回答）

謹啓 時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。

貴ルートの活動に対する取り組みについては、当町および道北地域全体の発展・地域振興に大きく寄与する取り組みとして期待されることから、今後も積極的な協力を続けていきたいと考えます。

敬具

担当：下川町 環境未来都市推進課 佐藤  
TEL：01655-4-2511  
FAX：01655-4-2517

幌 産 商 観 号  
平成 29 年 7 月 24 日

天塩川流域ミュージアムパークウェイ  
ルート運営代表者会議  
会長 吉田 肇 様

幌加内町長 細川 雅弘



シーニックバイウェイ北海道天塩川流域ミュージアムパークウェイルート運  
営活動計画に対する意見照会について（報告）

謹啓 時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。

貴ルートの活動に対する取り組みについては、本町及び道北地域全体の発展・地域振興に大きく寄与する取り組みとして期待されることから、今後も積極的な協力を続けていきたいと考えます。

敬具

担当：産業課商工観光係 松岡  
TEL：0165-35-2122  
FAX：0165-35-2127





平成 29 年 7 月 21 日

天塩川流域ミュージアムパークウェイ

ルート運営代表者会議

会長 吉田 肇 様

剣淵町長 早坂 純夫 印



シーニックバイウェイ北海道  
天塩川流域ミュージアムパークウェイ  
ルート運営活動計画に対する意見照会について（回答）

謹啓 時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。

貴ルートの活動に対する取り組みについては、当町および道北地域全体の発展・地域振興に大きく寄与する取り組みとして期待されることから、今後も積極的な協力を続けていきたいと考えます。また、今回策定するルート運活動計画につきましては、異議ありませんので、よろしくお願いたします。

敬具

担当：剣淵町づくり観光課

TEL：0165-34-2121

FAX：0165-34-2590

和商観第37号  
平成29年7月24日

天塩川流域ミュージアムパークウェイ  
ルート運営代表者会議  
会長 吉田 肇 様

和寒町長 奥山 盛



シーニックバイウェイ北海道  
天塩川流域ミュージアムパークウェイ  
ルート運営活動計画に対する意見照会について（回答）

謹啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

貴ルートの活動に対する取り組みについては、当町および道北地域全体の発展・地域振興に大きく寄与する取り組みとして期待されることから、今後も積極的な協力を続けていきたいと考えます。

謹白

和寒町産業振興課商工観光労政係 伏見

TEL 0165-32-2423

FAX 0165-32-4238

# ルート審査委員会 審査結果（案）

## 天塩川シーニックバイウエイルート

審査の視点	視点1					視点2	視点3	視点4	シーニックバイウエイルート指定の推薦の可否	
	国内において優位性が認められる主な地域資源								活動団体の主導的な推進	地域の魅力向上への取組
審査委員	景観	自然	文化	歴史	レク					
A	○	○	○	-	○	認められる	やや認められる	認められる	推薦できる	先行ルートには無い魅力と条件を大いに生かした活動を期待したい。 短期、中長期の計画の内容と密度を進化させながら、「住民連携」「公民連携」のもとで、着実な実行と実装化を進めてください。
B	○	○	○	-	○	認められる	認められる	認められる	推薦できる	十分に推薦できる。 希望としては 1. 「手軽な本格」のコンセプト変更（例えば、「本格が手近にあり、十部な準備とガイドがあれば、冬季でも楽しめ、極上の達成感・充実感を味わえる」）が可能であれば、さらにブランド化とビジネス化が期待できるのではないだろうか。 2. 広域観光周遊ルートとのさらなる連携の強化とその中で周辺ルートとの連携の強化が、強く望まれる。行政の配慮と工夫を強く願いたい。
C	○	○	-	-	○	認められる	認められる	認められる	推薦できる	SBWも10年以上を経て進化してきたが、世間の変化はそれを上回るスピードである。特にツーリズムや技術革新の世界は加速度級数的に勢いを増している。 今後のSBWの進展を予感する中で、新しい取組が期待できるように、本ルートを推薦したい。
D	○	○	-	-	○	認められる	認められる	認められる	推薦できる	-
E	○	○	-	-	○	認められる	認められる	認められる	推薦できる	川をコンセプトとして、広大な地域の連携を図ろうとすることは大いに評価できる。一方でエリアが広範にわたることから、各地域の活動団体の連携方策の工夫や、移動時間を要することから、旅行者の交通行動を考慮した地域内のブロック化などの対応策が必要と思われる。 また、道外、海外からの玄関となる空港等から距離があることから、本ルートへ誘導するために、他のルートとの積極的連携が求められるものと思う。

### ※視点

- 優れた景観資源の有無及び地域資源の優位性
- 活動団体によるルート運営活動計画の主導的な推進
- 地域住民等と行政が一体となった地域の魅力向上の取り組み
- 景観の質の向上、ルートのブランド化、地域の活性化

シーニックバイウエイルート審査委員会の委員による審査意見

[シーニックバイウエイルート] 天塩川シーニックバイウェイ

§ 審査の視点1 優れた景観資源の有無および地域資源の優位性について

	◎国内において優位性が認められる主な地域資源					◎景観資源に関する感想	◎ほかの資源に関する感想
	景観	自然	文化	歴史	レク		
A	○	○	○	-	○	<p>景観を「光景」「風景」「情景」に分けて捉えると、</p> <p>① 光景（人×自然（現象））→四季折々の、生の天文現象や手付かずの自然現象を身体を通して身近に体感できる豊かさは、「文化資源」「レクリエーション資源」として評価できる。</p> <p>② 風景（人×生業）→地域を育んできた日本最北の川・天塩川とその流域の大地な中で繰り広げられている農林業の力強さとその豊かさは、「文化」資源としての成長が期待される。</p> <p>③ 光景（人×コト・生活）→地域社会を支えているコミュニティと、生成りの自然の中で繰り広げられつつある「遊び」の魅力と豊かさ。</p> <p>②+③で出来上がる「生活景」は、ルート景観の魅力をつくり出す。</p>	<p>生の自然や河川に由来する「水」と同化しながら楽しむことの出来るダイナミックな「レクリエーション資源」は、グローバルな価値へと進化する可能性を秘めている。</p>
B	○	○	○	-	○	<p>北の大地を象徴する景観が豊かに存在する。それらは、奥深い森、雄大な天塩川、開拓の歴史を表す耕作景観であり、本格的な自然である。それらが、身近にありアクセス性が高いことが何よりの強みとなっている。</p>	<p>本格の自然が手近に存在する、ことは事実であるが、これは必ずしも「手軽な本格」であることと同意味であるとは思えない。むしろ、冬季観光や本格を楽しむための準備やガイドの重要性などを考えると、そこに観光地域づくり（地域経済への好影響、雇用創出など）の可能性はあるわけで、むしろ「手軽」と安売りしない方が良いと思われる。朱鞠内湖のビジネスモデルが参考になるのではないかと。レクリエーションのあり方もまだまだビジネス化の検討が不十分だと思われる。広域観光周遊ルート検討の間に、その支援スキームを活用してアクティビティプログラムの開発を地域主導で行うような工夫がほしい。</p> <p>文化も、森林文化、そば文化、アイヌと優れた素材を持ちながら、歴史も松浦武四郎遺跡や考古学の素晴らしい化石資源を持ちながら、まだまだ活用とプログラム化、ビジネス化が不足している印象である。素材を活用することが求められる。</p>
C	○	○	-	-	○	<p>北欧、スカンジナビアの香りを感じさせる日本離れた雄大な美しい景観は天塩川を基軸に、名寄川、剣淵川、雨竜川の恵み深き清流、地域面積のほとんどを成す森林、穢れの無い神秘的な北の湖シュマリ、そして氷雪や極寒地ならではの自然現象、すべてが地域の宝物と云えるユニークな観光資源で、道内・日本国内・アジアの地域の中でも優位性が感じられる。</p> <p>今まであまり知られてなかった、知らせなかっただけで、今後、ツーリズムのポテンシャルを大きく含んでいるルートである。</p> <p>この素晴らしい資源を活用したいという気持ちのあまり、資源のメンテナンスを自然にのみ委ねようとの意識がないか、気懸りである。積極的に資源を維持・保全するという「サステイナブル・ツーリズムの理念と実行」をルートのコンセプトの真ん中に忘れなく加えていただきたい。「環境・自然」の「維持・保全」があって初めて「調和」・「共生」が生まれるのではないかと思考する。</p>	<p>地元が誇る農産物、酪農製品、住民そのものや酷寒の地での暮らしなども十分、観光要素を含んだ地域資源として優れたポテンシャルを発揮できるものが揃っている。</p> <p>それから派生して産業観光や体験観光の要素も、やりようによっては評価レベルまで達することが出来るのではないかと考える。</p>
D	○	○	-	-	○	<p>農業資源、森林資源とともに景観を形成する重要な役割を果たしており、天塩川と名寄川、雨竜川、剣淵川など4つの川がもたらす恵を大地が受け止め、その恩恵を「食」に還元している数少ない地域である。</p> <p>北海道の手付かずの貴重な景観を有しており、一面に広がるソバ畑の景観は見る者を圧倒させる迫力を持っており、他のルートとは一線を画するものがある。</p>	<p>朱鞠内湖は地域資源としては北海道の自然を満喫できて申し分ないが、ターゲットが限られているように見受けられる。もっと広く老若男女それぞれに訴求できるようにすることで、認知度が拡大すると思われる。</p> <p>アウトドアスポーツ、サイクリング、冬のアクティビティ、温泉など観光資源が豊富であるが、一部の愛好者にしか知られていないように見受けられる。本州の人が抱く「北海道」の自然を体験するイメージを具現化できるルートなので、情報発信の更なる工夫と取組に期待する。</p>

E	○	○	-	-	○	<p>ルートコンセプトである天塩川の雄大な景観を基本として、一面白銀におおわれるそば畑、その他どこからでも眺められる雄大な景観は本ルートの強みである。</p>	<p>どのルートより極寒の地であるという自然条件はその生かし方次第では大きな魅力となる。また、自転車やカヌーを楽しむということではルート全体が巨大なレクリエーション空間であり、大きな魅力となっている。</p>
---	---	---	---	---	---	---	--

§ 審査の視点2 活動団体によるルート運営活動計画の主導的な推進について

	◎活動実績や活動内容について	◎活動団体の主導的な推進について	◎提出されたルート運営活動計画を活動団体が主導的に推進しようとしていることが
A	<p>「認められる」←平成26～28年度の活動実績が分類・紹介されている。 単年度で終了している諸活動を、より多様な視点（ルート審査委員との意見交換やアドバイスも重要）を加えながら継続していくことも期待している。</p>	<p>「認められる」 →今後、これらの活動内容が、地域の活動団体や地域の人々がより主体的・主導的になり、相互の連携を強めて、公民連携のもとで深化されていくことを期待している。</p>	認められる
B	<p>観光協会を中心に各地域団体が運営計画の策定とその実現について、主体的、主導的に活動を継続しており、高く評価できる。特に、幹事クラスの平均年齢が低いことは活動団体の高齢化が課題となっている他ルートに比べて特筆できる特徴である。また、広域観光周遊ルートに関連する他ルートとの協働も活発であり、さらに進めていただきたい。</p>	主導的な推進は認められ、高く評価できる。	認められる
C	<p>古くから道北地域の観光振興に取り組んでこられた「道北観光連盟」の組織がベースにあり、活動体制や運営方針は問題なく、十分な活動が担保されていると思われる。 特に、若いメンバーが色々な面で活躍されており、頼もしく感じた。課題抽出と取組も的確。</p>	若いメンバーが自発的に、ヴィヴィッドに参画していることからして、未来志向型の推進活動が期待される。	認められる
D	活動実績、活動内容については、きた北海道として連携した取り組みを実施していることが評価できる。	主導的な推進については問題ないが、さらにスピードアップを図って欲しい。全体調和を目指しつつも、合意形成に時間をかけ過ぎると時代に乗り遅れることも…。	認められる
E	ここにいたるまでの長年にわたる地道な活動を基礎として、広範囲にわたる活動団体の連携もみられ、現状における活動も評価でき、さらに今後の活発な活動も期待できる。	きた北海道エコ・モビリティの推進体制の強化等、主導的な推進活動が認められる。	認められる

§ 審査の視点3 地域住民等と行政が一体となった地域の魅力向上の取り組みについて

	◎地域住民等との一体的な取り組みについて	◎行政との一体的な取り組みについて	◎地域住民等と行政が一体となって景観をはじめとする地域の魅力向上に取り組んでいくことができることが
A	このルートの特徴は、「地域住民との連携」、「公民（住民＋企業住民）との連携」、「広域の連携」、「グローバルな連携」が存在してこそ、「光るルート」となる。 初期期はルート運営会議を頻度高く持ちながら、上記の四つの連携を着実に進めていただきたい。	行政との一体的な取り組みを強く期待したい。	やや認められる
B	商工会、観光協会中心という組織構成であり、これは機動性・継続性、ビジネス化という観点から評価できる。また、地域のNPO組織や住民・農民との連携も考慮されている。と同時に、高齢少子化の進んだ過疎地域であるが故の人材不足、本格的観光地ではなかったが故の住民意識に希薄さとそれを解消するための重要性についても認識されており、これらは運営計画に反映されている。今後を期待したい。	視察を通しての印象、運営計画書に記載などから判断して、問題はないと思う。	認められる
C	今回の視察では地域住民との接点はなく、的確には判断できないが、ルートのテーマに「北の大河に人と自然の調和が織りなす道」とあるように、地域の主役である生活者を巻き込んで活動を推進していくコンセプトが感じられ、今後、色々な局面で地域住民の皆さん方と一体となった取り組みが現出してくるであろうと予感できる。	「道北観光連盟」時代の昔から官民一体型の取組についてはお家芸であろうと思われ、今後もその継続が期待される。	認められる
D	活動団体と行政の連携はしっかりしていると思われるが、地域住民との関わりが見えにくい。行政が積極的に参加しているので、今後はより幅広く住民を巻き込んだ活動も定期的を実施して、地元におけるルートとしての認知度を高めることを期待する。 若い人が積極的に参加している点が他のルートに比べ目立つ。若者の力と女性の力を活かした次世代シーニックのモデルを目指してほしい。	ルート間の繋がりを明確にして共同プロジェクト事業を実施することなどで、より緊密な関係を作ることを今後検討していくことが望まれる。 広域観光圏として留萌や稚内の活動団体と連携して売り出すことを考えて欲しい。	認められる
E	現地視察において、住民との取り組みについて十分に把握できたとはいえないが、今後の展開に大いに期待できる。	自治体及び、観光協会、商工会等が活動の主軸となっており、行政との一体的取組みは顕著である。	認められる

§ 審査の視点4 景観の質の向上、ルートのブランド化、地域の活性化について

	◎景観の質の向上について	◎ルートのブランド化について	◎地域の活性化について	◎ルート運営活動計画の推進を通じ、当該ルートにおける景観の質の向上、当該ルートのブランド化及び当該ルートが存在する地域の活性化が見込まれることが
A	<p>景観を「光景」「風景」「情景」に分けて捉えながら、活動方針を共有して、活動計画をより具体化し、「地域住民連携」、「公民（住民＋企業住民）連携」、「広域連携」によって、活動方針を着実に実装化することを期待したい。</p>	<p>ブランド化は、自己満足ではなく、相手（他地域・道内・国内・グローバル）からの客観的な評価があって初めて存在する。カウンターパートがどこであるかも意識しながら、各種資源や魅力の発信を、更に戦略的に力強く推進することを期待したい。</p>	<p>「地域住民連携」、「公民（住民＋企業住民）連携」、「広域連携」によって、活動方針を進化させ、着実に実装化することを期待したい。</p>	認められる
B	<p>地域一体型の除草・花植え活動などを評価できる点が多い。また、特に力を入れているエコモビリティも景観視点場の整備と負う観点からは興味深い。</p>	<p>遊べる大河、本格、魅力的な不便、寒さの魅力といったキーワードは非常に魅力的である。ルートの漠然としたイメージとしてはその通りだと思うが、まだまだ具体化、資源との連携性、プログラム化に不足する点もあり、これの具体化、ビジネス化が課題であろう。未開拓の優れた資源が多数あるので、ブランドに育て上げるのは大変であろうが、頑張っていたきたい。周辺ルートとの相乗効果も重要であり、期待できるので、交流連携協働をさらに活発化していただきたい。</p>	<p>活性化については、準備段階、候補ルート時にも考えられ、実践されてきてはいるが、十分になされたとはまだ言えず、これからの大きな課題であろう。しかし、まだ議論、活動と巻き込みの輪は小さいとはいえ確実に、自治体やルートを超え、また異なる主体間で連携や活動の活発化はなされてきており、今後期待できる。</p>	認められる
C	<p>景観の質の向上は一にかかって、「観光資源の維持保全」であり、「ブランド化」と「地域の活性化」もそれに伴い自然についてくるものと思われる。さりながら、この項目には、一定の理念、ヴィジョン、成長戦略、マーケティングが必要であろうと思われる。そして忍耐強く持続させる「P・D・C・Aサイクル」（PLAN：計画・DO：実行・CHECK：確認・ACT：行動）と的確な政策判断のための旅行・産業統計分析が成長戦略に不可欠である。若いメンバーが活躍されているこのルートではこのような指摘は無用で、すでに実行に移されているかとは思われるが、忘れてはならないのは、昨今のツーリズムは価値観の多様化と変化の激しい環境の中で、厳しい世界競争の中にあることである。幸い、遅ればせではあるが、政府が「観光立国推進政策」を掲げ、世間の理解や支援の中で着実に成果を上げている状況下、北のはずれの従来ハンデキャップにさいなまれてきた地域も世界競争に参加できるようになってきた。ナンバーワンよりオンリーワンを目指すようになってきた。シーニックの中でも後発のメリット、後出しじゃんけんの優位性を享受できるものと信じている。</p>	<p>同上の内容に加えて、ルートのブランド化に関係する戦略の一つである「DMO」に対する取り組みは時流の波に遅れないように、地域において十分な議論を重ね、着実に実現していただきたいと助言する。</p>	<p>政府（内閣官房・観光庁）で推進中の「明日の日本をさせる観光ビジョン」にもあるように、「観光立国推進政策」と「地方創生」は、地域の活性化にとって「打ち出の小槌」である。国家の戦略に適合するよう、地域ぐるみで一体となって、取り組めるようコンセンサス作りが重要であり、本ルートはそれが可能であると思える。</p>	認められる



D	<p>現在の手付かずの自然を守ることが未来の景観を作り上げ、他ルートにはみられない良さを差別化の目玉とすることができる。そのため、現状維持、保全、改善など、現状の景観のチェックシートを作り、「あるべき姿」をルート全体で共有し、努力していくことが望ましい。</p>	<p>「きた北海道」というルート全体のブランド化について検討が必要だと思われる。  「きた北海道」なのか「北北海道」なのか、どちらを選ぶにも意味を持たせることが大切。  地域のブランド化には地域の「資源（ハード：自然、施設等）」と「素材（ソフト：食、農、商品、文化等）」を総合的につなぎ合せ、相乗的な効果を出すことが必要であり、ルートのコンセプトの抽出（資産の意味付け）をすることがブランド創出の要となるので、今後勉強会を開催するなど、関係者の一丸となった取組に期待する。</p>	<p>観光という視点で考えると、ターゲットが明確化されていない。また、地域にお金を落とす仕組みの構築が不明である。併せて、近辺には競合が多数あるため、この地域に来させるための仕組みづくりが重要となってくる。  地域の活性化は、一つできたら完成というものではなく、複数の要素が掛け合わされて出来上がっていくものである。毎年に全体目標を設定し、PDCAをきちんと回して息の長い活性化を進めて欲しい。一過性の活性化策は、すぐに終わりを迎えるので。</p>	認められる
E	<p>清掃活動や、看板の設置等質の向上に向けた積極的な取り組みが行われている。</p>	<p>川をコンセプトとするルートであり、他のルートと比べると、ブランド化には困難を伴うと思うが、ルート名称・コンセプトの検討、それに沿った景観整備、自転車、カヌー等レクリエーションやその他の活動の掘り起こしなど積極的な取組みについて評価できる。</p>	<p>活動のモチベーションとして、地域の活性化に主眼を置いていることを随所にうかがい知ることができる。今後、その成果に大いに期待できる。</p>	認められる

§ その他全般的な感想

A	-
B	<p>周辺ルートとの連携、広域観光周遊ルートとの協働を大切にしたい。その意味で、行政の十分な配慮をお願いしたい。</p>
C	<p>先般の意見交換会で、「ルート名」の話があり、スタート時の名前は評判が良くなかったもので、単純に「天塩川シーニックバイウェイ」とするとのことであるが、SBWとして川の名をルート名にすることはユニークで、大賛成であるが、この際、ルートのキモであり、命の源である「天塩川」に特別な想いを乗せるため、「天塩川・清流シーニックバイウェイ」と「清流」の文字を挿入したら？と思った。</p> <p>天塩川は森も山も湖も海も田畑も動物も人の暮らしもすべて潤し、生命を育んでくれる命の川で、未来永劫、この地域の発展と共に存在し、それも汚れや穢れを寄せ付けない、人間の都合の良いようにさせない「清流」であり続けなければならない。そういう地域の想いを地元の人々に、また、広く訪問者に伝えるためにルート名でアピールするのも一考かと頭をよぎった。</p>
D	<p>入念な計画を作り、実行してから問題点を抽出し改善していくというサイクルでは、時間がかかりすぎ商機を逃すことも多々あるので、「走りながら考える」ことにもチャレンジして欲しい。</p> <p>マーケティング計画の策定、ターゲットのセグメンテーション、商品化、値付け、発信方法、プロモーションなど関係者全体で勉強して、ブランド化を目指した一体的な取組を進めることが望ましい。</p> <p>また、地域に「お金を落とす」仕組みや場所をつくることを検討すること。</p> <p>一番気になるのは、観光でお金を落とすのは女性の方が圧倒的に多いのだが、全てのメニューが男性中心で女性向けのものが考慮されていない点である。是非前向きにご検討ください。</p>
E	<p>地域を流域とする川をテーマとして、地域連携を図ることはこれまでになかった試みであり、大いに評価したい。</p>

§ シーニックバイウエイルート指定の推薦の可否について

	ルート運営活動計画が、審査方針に照らして、シーニックバイウエイルートに推薦できるか否か	シーニックバイウエイルートに推薦する条件、または、推薦できない理由
A	推薦できる	先行ルートには無い魅力と条件を大いに生かした活動を期待したい。短期、中長期の計画の内容と密度を進化させながら、「住民連携」「公民連携」のもとで、着実な実行と実装化を進めてください。
B	推薦できる	十分に推薦できる。 希望としては 1. 「手軽な本格」のコンセプト変更（例えば、「本格が手近にあり、十部な準備とガイドがあれば、冬季でも楽しめ、極上の達成感・充実感を味わえる」）が可能であれば、さらにブランド化とビジネス化が期待できるのではないだろうか。 2. 広域観光周遊ルートとのさらなる連携の強化とその中での周辺ルートとの連携の強化が、強く望まれる。行政の配慮と工夫を強くお願いしたい。
C	推薦できる	S BWも10年以上を経て進化してきたが、世間の変化はそれを上回るスピードである。特にツーリズムや技術革新の世界は加速度級数的に勢いを増している。今後のS BWの進展を予感する中で、新しい取組が期待できるように、本ルートを推薦したい。
D	推薦できる	-
E	推薦できる	川をコンセプトとして、広大な地域の連携を図ろうとすることは大いに評価できる。一方でエリアが広範にわたることから、各地域の活動団体の連携方策の工夫や、移動時間を要することから、旅行者の交通行動を考慮した地域内のブロック化などの対応策が必要と思われる。 また、道外、海外からの玄関となる空港等から距離があることから、本ルートへ誘導するために、他のルートとの積極的連携が求められるものと思う。

## シーニックバイウェイルート 審査方針

### 1. ルート指定等の基本方針（シーニックバイウェイ北海道の基本方針3－（1））

ルート指定はシーニックバイウェイ北海道のブランド形成を図るための出発点であり、そのため、ルート指定にあたっては、特に以下のような点に留意する。

#### ①シーニックバイウェイルート

シーニックバイウェイが魅力ある観光周遊ルートとなるために、選択性の高い広域周遊ネットワークの形成が必要である。そのため、北海道内の各地域において、それぞれの特徴ある地域資源の保全・改善を行い、全域におけるルートの体系的配置を推進する。

### 2. ルート指定又は候補ルート登録のための必要書類

#### （1）シーニックバイウェイルート

- ①シーニックバイウェイルート提案書
- ②ルート運営活動計画
- ③ルート運営活動計画に対する対象市町村長の意見
- ④シーニックバイウェイ候補ルート登録時における付帯意見の対応表

### 3. ルート指定の審査方針

#### ①目的に対する合理性の確保

ルート指定の目的を達するために、審査の観点を定める。

#### ②審査における公平性の確保

審査においては、公平性の確保に努める。

#### ③手続きにおける透明性の確保

ルート指定手続きにおける申請から指定までの透明性を確保することに努める。特に、公募方法、審査結果については、適切な手段により情報提供、公開を行う。

### 4. ルート指定の審査基準

#### （1）指定書類の確認

必要書類の提出については、協議会事務局が確認を行う。

- ①シーニックバイウェイルート提案書
- ②ルート運営活動計画又はルート運営活動計画書の骨子
- ③ルート運営活動計画に対する対象市町村の意見（候補ルートについては添付なし）
- ④シーニックバイウェイ候補ルート登録時における付帯意見の対応表

#### （2）ルート運営活動計画記載事項の確認（シーニックバイウェイルート募集要項による）

シーニックバイウェイ北海道実施要綱に基づき、以下の項目について審査を行う。

- ①当該ルートの地理的範囲に関する事項
- ②当該ルートの愛称に関する事項
- ③当該ルートの特性と課題に関する事項／当該ルートの特性と課題が、他地域に比して優れた景観資源などが明記されているか。また、活性化に関する資源が整理されているか。

④当該ルートにおける活動団体が行う活動の現状に関する事項／当該ルートにおける活動の現状について、活動団体と活動状況がタイプ分類され、ルート運営のための活動実績等が明示されているか。

⑤当該ルートの基本方針に関する事項／ルートの基本方針について、大切にすべきイメージなどを含めて方針が整理されているか。

⑥当該ルートにおいて活動団体がこれから行おうとする活動に関する事項／当該ルート運営に関する事項について、活動プログラムおよびルート景観形成や地域資源の調査・保全・活用のための活動が明記されているか。

### (3) ルート運営活動計画の要件について（シーニックバイウェイ北海道実施要綱による）

①当該ルートが優れた景観資源（潜在的資源を含む。）を有し、かつ、当該ルートにおける景観以外の地域資源のうち自然資源、歴史資源、文化資源又はレクリエーション資源のいずれかひとつ（潜在的資源を含む。）について優位性が認められること

②提出されたルート運営活動計画を活動団体が主導的に推進しようとしていること

③地域住民等と行政が一体となって景観をはじめとする地域の魅力向上に取り組んでいくことができること

④ルート運営活動計画の推進を通じ、当該ルートにおける景観の質の向上、当該ルートのブランド化及び当該ルートが存在する地域の活性化が見込まれること

## 5. 審査方法

①審査委員各々が、評価シートにより評価および推薦の可否を判断

②協議会事務局が推薦結果とりまとめ、協議会により指定の可否を決定

## 6. その他

候補ルート登録後に、景観資源及び地域資源の優位性の確認のため現地視察を実施する。

◇参考資料:評価シートの記載事項

(シーニックバイウェイルート)

- § 審査の視点1 優れた景観資源の有無および地域資源の優位性について
- § 審査の視点2 活動団体によるルート運営活動計画の主導的な推進について
- § 審査の視点3 地域住民等と行政が一体となった地域の魅力向上の取り組みについて
- § 審査の視点4 景観の質の向上、ルートのブランド化、地域の活性化について
- § シーニックバイウェイルート指定の推薦の可否について

評価シートにおける記載事項と要件の対応

ルート運営活動計画記載事項	ルート運営活動計画の要件
①当該ルートの地理的範囲に関する事項	(範囲ルートが適切か)
②当該ルートの愛称に関する事項	(対象地域の愛称として適切か)
③当該ルートの特性と課題に関する事項/当該ルートの特性と課題が、他地域に比して優れた景観資源などが明記されているか。また、活性化に関する資源が整理されているか。	①当該ルートが優れた景観資源(潜在的資源を含む。)を有し、かつ、当該ルートにおける景観以外の地域資源のうち自然資源、歴史資源、文化資源又はレクリエーション資源のいずれかひとつ(潜在的資源を含む。)について優位性が認められること
④当該ルートにおける活動団体が行う活動の現状に関する事項/当該ルートにおける活動の現状について、活動団体と活動状況がタイプ分類され、ルート運営のための活動実績等が明示されているか。	②提出されたルート運営活動計画を活動団体が主導的に推進しようとしていること
⑤当該ルートの基本方針に関する事項/ルートの基本方針について、大切にすべきイメージなどを含めて方針が整理されているか。 ⑥当該ルートにおいて活動団体がこれから行おうとする活動に関する事項/当該ルート運営に関する事項について、活動プログラムおよびルート景観形成や地域資源の調査・保全・活用のための活動が明記されているか。	④ルート運営活動計画の推進を通じ、当該ルートにおける景観の質の向上、当該ルートのブランド化及び当該ルートが存在する地域の活性化が見込まれること
(シーニックバイウェイルートは自治体長からの意見照会回答を、シーニックバイウェイ候補ルートは今後の取り組みを参考)	③地域住民等と行政が一体となって景観をはじめとする地域の魅力向上に取り組んでいくことができること